

天城町立西阿木名中学校

～課題解決学習（下原洞穴遺跡）～



下原洞穴遺跡が所在する天城町西阿木名には大きく2つの段丘が認められ、標高約150mの名集落が立地する段丘（系木名層）と、その西側にあつて通称「シューバル（下原）」と呼ばれる一段低い段丘（亀津層）がある。この二つの段丘の境は約40～60mの高さの崖となり、この崖面が南北に屏風のように延びている。この崖面には、多くの洞穴が形成されており、下原洞穴遺跡もこの崖面に開口した洞穴に立地している。学校では、郷土教育を通して、郷土の人々の暮らしや自然、産業、芸能に対し理解を深めることによって、郷土愛を育て、文化の創造に尽くす心を育てている。また、郷土の素材や人材を活かした課題解決的・体験的な学習を通して、郷土への理解を深めるとともに、自己の生き方に活かす態度を養っている。